



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 中山康雄教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2018, 44, p. 357-360
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68309
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

中 山 康 雄 教授

なか やま やす お
中 山 康 雄 教授

中山教授は、昭和 50 年 3 月京都大学理学部を卒業後、ハイデルベルク大学において哲学を専攻した。その後、ベルリン自由大学において哲学を主専攻とし、昭和 58 年 3 月に修士課程を修了し、昭和 62 年 7 月に哲学博士 (Dr. phil) を取得し、博士課程を終了した。そして昭和 63 年 9 月に、ダイムラー・ベンツ株式会社ベルリン研究所研究員に採用された。その後、平成 3 年 4 月に大阪大学人間科学部人間学系人間科学基礎論講座の助教授に採用され、平成 8 年 4 月には教授に昇任した。そして、平成 12 年 4 月に大学院重点化に伴い大阪大学大学院人間科学研究科教授(基礎人間科学講座論理科学分野)となった。平成 23 年 4 月に分野名が「科学哲学」に改められたが、この間、大阪大学および同大学院人間科学研究科の発展に尽力し、平成 30 年 3 月 31 日に定年退職される。

この間、同教授は、長年にわたって学生の教育と研究に従事し、分析哲学と科学哲学の分野で学内・学外の若手研究者に影響を与えてきた。同教授の研究の特徴は、独創性と厳密性と学際性と国際性にある。同教授の研究の特徴は論理学に基づく哲学的考察の表現にあり、問題を厳密に分析し、解決法を提案していることがある。研究領域は広く、言語哲学、科学哲学、心の哲学、時間の哲学、存在論、形而上学、社会の哲学、法哲学など多岐にわたっている。これらのテーマは、人間科学研究科のどの部分とも接触する側面を持っている。また先生は、論理学、数学、物理学、生物学、脳科学、認知科学、人工知能研究、形式的言語学などの分野に関する基礎知識を習得しており、これらの知識を哲学的考察と結び付けた研究を一貫して展開してきた。そして数多くのそしてこれらの分野を専攻する幅広い学生が集まり、多くの研究者を育ててきた。さらに、中山先生は独自の理論構築を目指し、英語やドイツ語や日本語での多数の研究論文および研究発表や 8 編の日本語による単著などにおいて自らの研究成果を積極的に発信してきた。この積極的研究活動は、専門領域の研究者たちに高く評価されている。

人間科学研究科では、紀要編集委員、評価委員、教務委員、教務委員長、系幹事教授などの部局内委員を務め、研究科の管理・運営に寄与・貢献した。また、学際的姿勢を学内での共同研究にいかし、グローバル COE 「認知の理解に基づく未来工学創成」(2009 年度～ 2013 年度) および、大阪大学未来戦略機構「認知脳システム学研究部門 (2014 年度～ 2016 年度)、先導的学際研究機構システム知能学部門 (2017 年度) の主要メンバーとして研究活動に參加した。そこでは、ロボットを用いた人間についての研究の哲学的側面を掘り下げろ研究を行い、英語や日本語での研究成果を発表した。

学会活動では、日本哲学会の編集委員、関西哲学会の委員および編集委員、応用哲学会の理事、科学基礎論学会の評議員および編集委員、日本科学哲学会の評議員および理事および編集委員長などを歴任し、それぞれの学会の発展に寄与してきた。さらに、国際ワーク

ショップ LENLS (Logic and Engineering of Natural Language Semantics) および CCPEA (Conference on Contemporary Philosophy in East Asia) の設立に貢献し、その後も引き続き運営に携わってきた。これらの学会活動は、関連分野の研究者たちに高く評価されている。

以上のように、中山先生は大阪大学及び大学院人間科学研究科・人間科学部における教育、研究、運営を通じて、その充実と発展に寄与するとともに分析哲学、科学哲学を含む学際的研究を通じて、学術振興に大きく貢献した。

主 要 業 績

主要著書

1. 中山康雄『時間論の構築』勁草書房 2003 年 1 月
2. 中山康雄『共同性の現代哲学 — 心から社会へ』勁草書房 2004 年 11 月
3. 中山康雄『言葉と心 — 全体論からの挑戦』勁草書房 2007 年 1 月
4. 中山康雄『科学哲学入門 — 知の形而上学』勁草書房 2008 年 10 月
5. 中山康雄『現代唯名論の構築 — 歴史の哲学への応用』春秋社 2009 年 7 月
6. 中山康雄『規範とゲーム — 社会の哲学入門』勁草書房 2011 年 9 月
7. 中山康雄『示される自己 — 自己概念の哲学的分析』春秋社 2012 年 12 月
8. 中山康雄『パラダイム論を超えて — 科学技術進化論の構築』勁草書房 2016 年 11 月

他 17 冊

主要学術論文

1. Nakayama, Y. (1988) Der deskriptive Glaubensbegriff, *Erkenntnis*, vol. 28 no. 1 (Jan. 1988), pp. 29 - 53
2. Nakayama, Y. (1998) Attitudes and Classification of Utterances, *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*, Vol. 9 No. 3, pp. 37 – 53
3. Nakayama, Y. (2001) Scientific Reasoning and Belief Structure, *Proceedings of the International Conference on Artificial Intelligence*, Vol. II, CSREA Press, pp. 881-887
4. Nakayama, Y. (2013) The Extended Mind and the Extended Agent, *Procedia Social and Behavioral Sciences*, vol. 97, Elsevier, pp. 503-510
5. Nakayama, Y. (2016) An Evolutionary Theory for Science and Technology, 2016: *Selected Papers of 2nd CCPEA, Contemporary and Applied Philosophy*, Vol. 8 No. 2, pp. 15-42

他 116 報